

[外国債券投資の基本]

外国金利等 変化要因	収益率への影響		外国債券投資戦略	
	債券価格	為替損益	投資対象証券	為替ヘッジ
物価上昇率 上昇	－	－	投資せず	-----
物価上昇率 低下	＋	＋	長期債	ヘッジなし
実質金利 上昇	－	＋	短期債	ヘッジなし
実質金利 低下	＋	－	長期債	ヘッジ付

(根拠) フィッシャー方程式 $i = r^e + \pi^e = r^e + E(\Delta P / P)$

割引債価格 $B = 100 / (1 + y + RP)^t$ $y \doteq i$

相対的購買力平価説 $S = p_{jp} - p_{us}$ (自然対数表示)

IRP $S = S^e / (1 + i_{jp} - i_{us} + RP)$

cf. 添字の e は「予想」の意。

[米国経済の今後の行方と外国債券投資の一例]

米国景気が改善しつつある、との判断で、以下の政策が採られる場合を考えてみましょう。

[金融引締め政策]

「政策金利引上げから、市場金利も上昇」

長期債(米国債)売却。
ヘッジ比率を下げましょう。

例外的な見方として

[財政政策]

米国は日本ほどではないのですが、財政赤字です。
財政政策で景気浮揚をはかることは金融緩和の確率より低いです。
とは言うものの、米国経済が好調であり、財政政策を積極的に採る必要がないとすると、
「市場金利下落」
長期債(米国債)購入。
短期債から長期債にシフトしましょう。
ヘッジ比率を上げましょう。